

文化財を訪ねる かみのかわ山さな旅

鬼怒川を歩く

上三川町は、町名からもわかるとおり「川」と関係が深い町です。町の東部には、大河鬼怒川が流れ、西部には田川が南流しています。この二つの川は、町の歴史を考える上で重要で、これに係わる事件がたびたび起きるなど、人々の生活に密接な関わりがありました。今月は、町の北に位置する宮岡橋から鬼怒川を南下してみましよう。

暴れ川で有名な鬼怒川は、大きな洪水を頻繁に起こしましたが、戦後に大規模な治水事業を行い、現在は両岸に頑丈な堤防が築かれ、当時の様子とは大きく異なります。また、サイクリングロードが整備されるなど、歩きやすい環境になっています。宮岡橋を南へ行くと東汗に至りますが、ここには以前、渡船場が設置され、対岸の勝瓜を結ぶ上で重要な役割を果たしました。実はこのような渡船場は、上三川町内の鬼怒川沿いに、明治20年頃には東汗の他にも東蓼沼から柳橋、上郷から大沼、上三川から粕田の4か所に置かれ、特に明治から昭和にかけては、県や村が運営を行い、人や物を運ぶ重要な手段でした。これらの渡船の多くは、明治6年以前に成立しており、最も遅いものは上郷から大沼の渡船でした。

東汗から更に南に下ると東蓼沼に至ります。現在は鬼怒川に沿って蓼沼親水公園が整備され、町民の憩いの場となっていますが、この付近に

は、江戸時代から明治時代初期にかけて、東蓼沼河岸が置かれました。

河岸には、周辺の村々から年貢米が集められ、船を使って江戸に送られました。実は鬼怒川は、鉄道網が発達する明治時代までは、下野の物流の中心でした。1606年に阿久津河岸（現：さくら市）が終点の河岸として開設され、結城の河岸として久保田河岸（現：結城市）も置かれるなど栄えました。町内にはこの他にも、現在の鬼怒川大橋の近くに三本木（上三川）河岸が置かれ栄えました。

昔は人々の生活と密接なかかわりがあつた川も、現代に生きる私たちにとっては、めったに触れ合うことのないものになってしまいました。これを機会に川沿いを歩いてみませんか？ きっと新しい発見があるはずです。



鬼怒川は人々の生活と密接に関わってました

た報俳句

- 初明り大量旗の入港す 浜野正男
- 保育器の曾孫と御慶交しけり 大八木喜重郎
- 遠近おとよに小さき渦巻く路地もみじ 柳田石村
- バソ故障止むなく賀状手書とす 伊沢静香
- 年用意おもひそれぞれ三世代 蓬田四方
- くる年の幸せ願ひ注連作る 浜野マス子
- 若水や神棚へ児を高く上げ 阿部信子
- 生くること楽しむ気力老の春 野沢花枝
- 雑とうの渦に呑まれし年の暮 上野キミエ

